

全国協議会 ニュース (仮称)

発行所
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒111-91
東京都浅草郵便局内
私書箱119号
TEL 03-625-7307

発行責任者
運営委員長 宮戸征美

郵便振替口座
東京 5-15754
銀行口座
太陽神戸三井銀行
新宿支店
普通 5666655

公的骨髄バンク実現へ

厚生省研究班、報告書を発表

今年六月より検討が続けられてきた、厚生省の「骨髄バンク組織に関する研究班」より、これまでの検討内容をまとめた報告書が、11月21日に発表されました。

「はじめに」
一部の白血病や重症再生不良性貧血等に有効な治療法である骨髄移植においては、HLA型（白血球の型）が提供者（ドナー）と患者（レシピエント）との間で一致する必要があります。しかし、家族間でHLA型が一致する

もの割合は全患者の4分の1程度であり、かつ、一般にこれが一致するのは数百〜数万人に1人とされるため、広く非血縁者から善意による骨髄提供を募ることを目的とした骨髄バンクの設立が望まれている。

これに対し、平成元年度厚生科学研究事業による「骨髄移植の評価に関する研究班」は、骨髄バンクは、公平性、公共性及び広域性が担保される

全国協議会アピール

今回の報告書の発表により「骨髄バンク」のおおよその枠組が明らかになりました。このことにより、わたしたちの「骨髄バンク設立要求運動」も一応の成功をおさめたと言えます。

しかし実際に骨髄バンクを運営するためには、骨髄提供希望者をどこが、どの

ように集めるのか（募集業務）、血液検査から二次、三次、最終検査までの説明をどこが、どのように提供者および提供者希望者に対して行うのか（コーディネート）、さらに補償制度はどうするのか等、まだ解決すべき問題はこれからの検討課題として残されています。

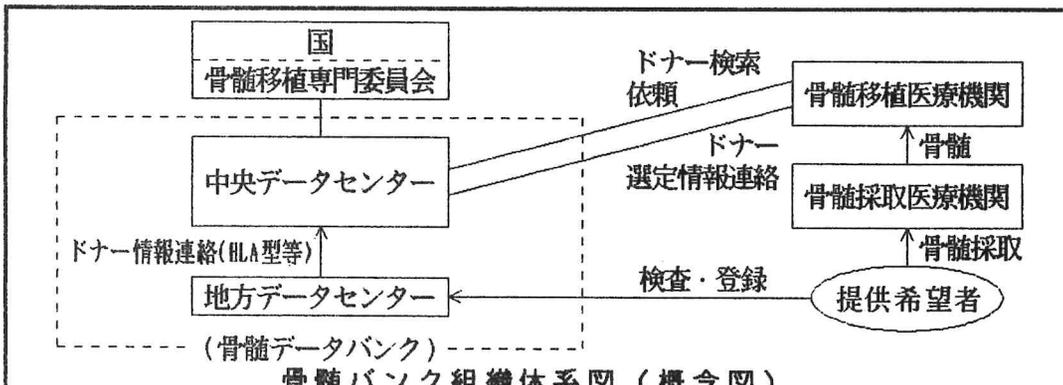
骨髄バンクは国、厚生省、日本赤十字社、各地方自治体等の機関が運営すべきであり、これらの公的機関が関与することにより公共性が確保されます。

必要があり、また、骨髄バンクの設立及び運営に

（1）骨髄移植専門委員会
骨髄移植事業の育成及び推進に資することを目的とし、広く専門家を集結し骨髄移植及び骨髄バンク体系の管理・運営に関することにつき審議するための委員会であり、国にこれを設置する。

（2）骨髄データバンク
中央データセンター
全国規模でドナー希望者の登録を行うとともに、レシピエントのデータからドナー検索を行い、公平かつ円滑に骨髄移植が実施されるために必要な情報を関係機関へ提供する。

（3）移植関連医療機関
（ア）骨髄移植医療機関
骨髄移植の実施及び中央データセンターへドナー選定の依頼を行う。



署名活動は続けます。

性及び広域性が保障される公的機関が望ましい。その具体的な実施主体を、ドナーの保護、公平な骨髄提供、業務面（HLA検査等）から総合的に勘案しつつ検討した結果、日本赤十字社の協力を得て実施されるのが適切と考えられる。

クリスマス献血キャンペーン 十二月二十二日 各団体に一斉に

献血より得られる血小板等の血液製剤は、血液疾患の患者さんたちの治療法や骨髄移植に大量に用いられます。また頻りに輸血を受けている再生不良性貧血の患者さんには、HLAの一致した血小板を用いないと、せっかく輸血してもすぐに効果がなくなってしまう。

このように血液疾患の治療の上で、献血を考えることは非常に重要なことです。またこれからの年末年始には全体に血液が不足する時期でもあります。

日頃の血液事業に携わっている方々への感謝の意を示すとともに、全国の運動グループが「クリスマス献血」と題して、12月22日に各地で献血キャンペーンを行うことになりました。(一部日程が違ったり地域がありますのでご注意ください。)

- ◆北海道
札幌大通地下献血ルーム
一〇〇〇〇～一五〇〇〇
- 北海道血液センター
一〇〇〇〇～一五〇〇〇
- ◆東北
仙台駅北口献血ルーム
一〇〇〇〇～一七〇〇〇

- ◆新潟
JR新潟駅前、移動採血車
九〇〇〇～一五〇〇〇
- 新潟古町献血ルーム
一〇〇〇〇～一七〇〇〇
- ◆新潟県血液センター
九〇〇〇～一六〇〇〇
- ◆つばさの会
長野県血液センター
九三〇〇～一六〇〇〇
- 松本血液センター
九三〇〇～一六〇〇〇
- ◆埼玉
大宮駅献血ルーム前
一〇〇〇〇～一五〇〇〇
- ◆東京
数寄屋橋公園前、移動採血車
一一〇〇〇～一六〇〇〇
- ◆神奈川
JR藤沢駅前、移動採血車
一〇〇〇〇～一六〇〇〇
- 川崎駅リクルートビル内献血ルーム
一〇〇〇〇～一六〇〇〇
- ◆はとの会
金沢市広坂2丁目中央公園入口広場移動採血車
一三三三〇～一六〇〇〇
- 献血ルーム「ラプロ」
一三三三〇～一六〇〇〇

- ◆名古屋
名古屋栄三越前広場成分献血移動車
一〇〇〇〇～一六〇〇〇
- ◆三重
三重県血液センター
(十二月十五日) 九〇〇〇～一五〇〇〇
- ◆骨髄献血の和を広げる会
十二月二日 広げる会の総会を開催。当日会員が成分献血に行く。(十二月二日、一八、三〇日広げる会の会員が献血ボランティアとして協力。)
- ◆中四国
中四国会議より会員に十二月二日に献血に協力するよう通知し、カード(中四国会議発行)を持って最寄りの献血会場に行ってもらおう。
- ◆九州
JR博多駅前、移動採血車
一〇〇〇〇～一五〇〇〇
- JR佐賀駅西友前移動採血車
一〇〇〇〇～一五〇〇〇
- 宮崎県血液センター若草出張所
一〇〇〇〇～一六〇〇〇

第二回 骨髄バンク公開シンポジウム「アメリカの骨髄バンクの現状に学ぶ」

10月21日東京大
学安田講堂にて、
第二回骨髄バンク
公開シンポジウム
が開催されました。
ここではアメリカ
カより招待された
6名の講師の方の
講演内容を紹介
します。

「全米骨髄バンク
の設立に至る経緯」
Dr. グレービス
(全米骨髄バンク
の創始者・全米骨
髄バンク理事)
一九七八年、私
の娘のローラが急
性白血病となり、
シアトルのフレッ
ド・ハッチンソン
癌センターに行く
ように勧められま
した。兄弟間で提
供者を見いだせな
かったのですが、
センター内のスタ
ッフのナンシーと
HLAの一致し、
一九七九年に移
植が行われました。
その後、1年目に
ローラは再発で亡
くなりましたが、
1年間健康を取り
戻し、この戦いは
無駄では有りませ
んでした。この移
植で、コロラドに

おいて全米骨髄ドナープログラム(NMDP・全米骨髄バンク)の元がローラ自身、ドナーとなったナンシー、ハンセン先生、私と妻、私の友人たちで始められることになったからです。ハンセン先生は米国中を駆け回り努力され、最終的には米赤十字血液銀行等が中心になり組織が整って来ました。

整理してみますと、
一九六八年
骨髄移植米国内1例目実施
一九七三年
非血縁間で骨髄移植実施
一九七九年
非血縁骨髄移植成功1例目(ローラ)
一九八六年
全米骨髄バンク設立約定
一九八七年
全米骨髄バンク運営開始
一九八九年
国立心臓血液協会が中心的なエージェントとなる
一九八六年以来、NMDPの活動は活発に行われて来ました。まず、ドナー数は当初八百人だったものが現在20万人、移植センターは7カ所から全米30カ所に、国内だけの連携は国際的に広がっています。一九八七年に最初の移植を行ったが、現在までに四五〇〇件の移植が行われています。また、20万人のドナーの血液タイプには一四〇〇万ドルの費用がかかるが、これは米海軍の資金提供や善意の募金などで賄っています。また、NMDPは国民からの

支持も受けています。ファーストレディのバーバラ・ブッシュをはじめ、ごく一般人の人々からも草の根的にその支持を得ています。「病気の人を薬ではなく、人間の心で助けよう」と、全く見知らぬ人が勇気を持って骨髄を提供しようとする助け合いの精神が大事だと思えます。

「米骨髄バンクを通して患者がドナーを得るまでの手順など」
Dr. ダグラス・ショウ
(全米骨髄バンク事務総長)
NMDPは骨髄移植センター、ドナーセンター、骨髄採取センター、ドナーリクルートグループから構成されています。また、他国とも連携があり過去40回以上も国境を越えた活動もしています。

患者はNMDPのドナー検索のために
1 移植センターに行く
2 事前の検索(20万人のドナーのA、Bのみ)24時間以内に候補者が提示される
3 正式検査(DRを含め一致者を採す) 血液検査の依頼(現在DR検査が済んでいるドナーは20%)
3の時点からNMDPは請求対象にしています。この間ドナーには患者の、患者にはドナーの氏名が判らない状態です。このシステムはドナー保護のため、強制や報復が有ってはならないとしています。4 MLC(混合白血球培養)の為ドナーに連絡し血液採取に適合した場合、